

# 「大事なことは身体で学ぶ」

盛岡市教育研究所専門研究員

篠田 宜道

私は三年前に教員を退職し、現在は非常勤で盛岡市内の先生方のお手伝いをしています。今回、紙面をお借りして、私たち人は大きなことをどのようにして学んできたのか考えてみます。

## 生活の基本

朝起きて顔を洗うこと。食事前に「いただきます」と声に出すこと。相手と視線を合わせて話すこと。このような行動は人として必要な生活の基本です。朝の「行ってきます」、帰宅時の「ただいま」、「おやすみなさい」、まだまだ挙げることができます。皆様も、何歳頃から言えるようになったのかの明確な記憶はななくとも、自然に口から出るように親御さんに育てられたのです。これらの行動は、その場の状況を読み取り、理解したうえで、本人が意図的に行動を起こすものではありません。日々の生活の中で自然に身についた行動で、習慣とも呼ばれます。この習慣、

特に子ども頃の習慣は、強く残り一生付いて回るといわれます。

近年、人の身体の仕組みが明らかになってきました。習慣は、脳の細胞や神経回路のつくりと関わっていて、行動の反復によって新たな神経回路ができること等がわかってきました。

乳児期の母親との情報のやり取りが、脳や神経回路の発達に関わっていることもわかってきました。乳幼児に長時間テレビを見せること、母親が携帯電話に夢中になって子どもの問いかけに目を見て答えられないことなどが日常的に繰り返されると子供の精神の発達に影響が出かねないと警鐘を鳴らす専門家もいます。運動を継続すると筋肉や骨格が発達して、腕や脚が太くなることは経験で知っています。それに比べて、子供の体内ではその運動に関わる脳や神経系に新しい連携の仕組みが作られるというのです。

何年前か、「人は見た目が九割」という本がベストセラーになりました。著者は本の中で「言葉は七割しか伝えない」と、人と人との関わりにおいて身体言語（身振り手振りや顔の表情等の微妙な身体の動き）が大きな役割を果たしていることを述べています。

小学校に入学したとき、進級して新しい学級になったとき、子どもたちは彼らなりのやり方で交流を図り、新しい人間関係を作ります。大人ほど言葉が発達していない子供同士の交流には身体言語の果たしている役割が大きいことは容易に想像できます。

笑顔での呼びかけ、元気な返事、物を借りるときの話し方、ごみをゴミ箱に入れること、子どもたちは習慣に基づいて行動します。乳幼児期に家庭の中で身についた習慣は、保育園や小学校での友達作りの手掛りとなり、集団生活を送る基礎になります。

## 学習の基本

学習の基本はいつの時代においても「読み、書き、そろばん」だと思えます。この三つとも「声に出して読む」「漢字を書く」「書いて計算する」のように、何らかの身体の運動を通して学びます。皆さんも小学校低学年のとき

に掛け算の九九を何度も声に出しては練習し、暗記した記憶をお持ちのことと思います。漢字書き取りの苦勞も日本人共通の苦しい思い出でしょう。何度も手や口を動かしたからこそ、記憶に強く残り、大人になっても即座に思い出すことができるのです。

数年前、日本の小中学生の学力が国際比較で低下傾向にあるとのことで、義務教育のあり方が国々でも取り上げられ、教育基本法等の法律の一部が変更されました。教科書も変わりました。「落ちこぼれ」等の詰め込み教育の批判を受けて改訂のたびに薄くなってきた教科書は、皆様のお子様

が現在使用中の教科書から分厚く、ずしりと重くなりました。しかしながら、学ぶ量が増えたことにもろ手を挙げて賛成するわけにはいきません。「身体で学ぶ」ことが軽く扱われるようになると「落ちこぼれ」問題の再燃を招きかねません。歴史は繰り返すと言われますが、繰り返す周期が早すぎるのは考えものです。

二千五百年前に人の道を説き、今でも書店に並ぶ中国の古典、論語は「学びて時にこれを習う。またよるこぼしからずや。」で始まります。「新しいことを知ったならば、それを反復練習して理解を深め自分のものにする

は嬉しいことだ」のような意味です。真に学問を習得するには、学んだだけでなく、反復練習が肝要であるという学びの本質を述べています。

人の身体は、話を一度聞いただけで記憶として定着するようにはなっていない。いつの時代の子どもにも論語にいう「これを習う」場、繰り返し練習する場が必要です。家庭での学習は、この反復練習の場として基礎学力の形成に不可欠な役割を担っています。

人が育つ過程では、人の持つ動物としての特性が強く表に出てきます。科学技術の進歩で生活が便利になり、情報化が進んだ今日でも、子どもの成長には、時間をかけて身体で学ぶ、昔と変わらないステップが必要だと思います。

## プロフィール



岩手大学卒業。本県中学校教諭に採用され、理科を担当。理科教育の振興に携わり岩手県科学教育連合会の会長を歴

任。平成21年3月退職。

現在は盛岡市教育研究所専門研究員（非常勤）、学級経営や盛岡の先人教育に関わる調査研究を担当。